

取引先各位

ルグネット大崎2号館 ベット一式等導入に係る仕様書

* 下記の型式に満たない商品であっても、当法人入札選定委員が同等品と認め、導入配置に支障が無い場合は入札を認める。

1. 品名 : 電動リモートコントロールベッド

2. 製品規格番号 : KR-83575R(パラマウント)

3. 概要

- (1) 本ベッドは、背・膝の角度、高さの調節が単独で操作できる。各動作は、手元スイッチ操作によりそれぞれ独立した電動アクチュエータで作動する。
- (2) 緊急時には、ピンを取外すことにより背ボトムを下げるができる。
- (3) 寸法は全長 201・全幅 103.5・全高 69.1-102.1cm。

4. 各部の構成・機能

4.1 ボトム

- (1) ボトムは4分割の鋼板ボトムで構成する。
- (2) 鋼板ボトムは主材を鋼板とし、成形絞りにより強度を確保する。また、通気性確保のため、それぞれの鋼板ボトムに複数の通気孔を設ける。
- (3) 背・腰・膝・足の各ボトムは、清拭しやすい面形状とする。背ボトムと腰ボトム、腰ボトムと膝ボトム、膝ボトムと足ボトムの連結部は、清拭性に考慮したすき間を設ける。
- (4) マットレスのずれ下がり・横ずれを抑制させるため、マットレス止めを備える。

4.2 メインフレーム

- (1) メインフレーム上面は、オプション品取付孔 12ヶ所(片側 6ヶ所)を備える。
- (2) (1)のオプション品取付孔は、不安全なすき間が生じることを予防するため、不適切なサイドレール等とベッドの組み合わせを防止したり、不適切な向きや位置にサイドレール等が取り付くことを防止する構造とする。

4.3 ベースフレーム

- (1) 主に角形鋼管で構成され、端部には脚座を備える。

4.4 ヘッドボード・フットボード

- (1) 容易に着脱ができ、不用意な外れを防ぐためのストッパーを設ける。
- (2) パーティクル材、木目シート貼り構造とする。

4.5 電動アクチュエータ及び電装品

- (1) 電装品は、使用者の感電を防ぐために二重絶縁とし、手元スイッチの電圧は5Vとする。
- (2) 手元スイッチのボタンを押すことにより、電動アクチュエータを作動させ、背・膝・高さの各動作を可能にする。

-
- (3) 電源のオン・オフは、手元スイッチの通電表示ランプにて確認できる。その通電表示ランプの状態により、ベッド状態を識別することができる。点灯:正常、点滅:エラー状態を示す。
 - (4) 介護の効率化を図るため、ベッド上の重量にかかわらず各動作は一定の速度で上昇・下降ができる。
 - (5) 手元スイッチのコードが床面に垂れ下がり、つまずきや不衛生の原因とならないように、コードにはカール構造を採用している。
 - (6) 手元スイッチは、使用者が動作部位を判別しやすくするために、絵(ピクト)を表示すると共に文字表示がされ、通電表示ランプにより暗闇でも位置を確認しやすくする。
 - (7) 手元スイッチの操作ボタン上の矢印(↑・↓)により、上げ下げの表示をし、指で触って識別できるよう突起を設ける。
 - (8) 誤操作の防止や症状に応じて操作禁止をするため、手元スイッチにオン・オフの切換スイッチを備える。操作が禁止されていることは通電表示ランプの状態により識別することができる。点灯:操作可能、消灯:操作禁止を示す。
 - (9) 背・高さ調節は、業務の効率化あるいは症状に応じポジション確保が適切に行えるよう、普通・速いの2段階の速度切り換えができる。速いで設定した場合、背上げの傾斜角度は、最大角度まで19秒で動作でき、高さ調節は330mmの調節量を22秒で動作できる。手元スイッチに切換スイッチを備える。背・高さが高速であることは、手元スイッチ上部のLED表示で設定状態を確認できる。
 - (10) ギャッチ操作時の患者の圧迫を防ぐため、背・膝ボトムの角度が、通常の動作中に常に90°以上の角度を確保する制御を行う。
 - (11) 高さ下げ操作時には、メインフレームとベースフレームまたは床との間で、手や足、周囲の物品などの意図しない挟まれを防ぐため、ボトムの高さが300mmの位置で一旦停止する。その際、ピッピッと警告音を鳴らす。その後、再度高さの下げ操作を行うと、警告音を繰り返し鳴らしながら、最低位置まで下降する。この際、ベッド動作速度が速いモード、または普通モードになっていても遅いモードになる。
 - (12) 不意な操作による挟まれ防止などの安全確保のため、手元スイッチのボタンを2つ以上同時に押した場合、誤操作とみなし動作を停止する。
 - (13) ベッドの動作開始時および停止時には、患者が感じる衝撃や不快感を軽減するため、緩やかにベッドの動作速度を加速・減速させる制御を行う。
 - (14) 電装部の異常時には、手元スイッチの通電表示ランプのLED点滅で異常が確認できる。

4.6 表面処理

- (1) 主要部分の構造材外側の表面処理は、錆防止および表面強度の確保のため、電着焼付塗装および粉体焼付塗装によるダブルコーティング塗装とし、色はホワイトアイボリーとする。
- (2) 主要部分の構造材(パイプなど)の内側の錆防止のため、構造材内側の表面処理に電着焼付塗装を施す。